（様式１）

１　自己評価及び外部評価結果

作成日　　平成　23 年 11 月　4 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3473900599		
法人名	社会福祉法人　成寿会		
事業所名	グループホーム大浜		
所在地	広島県呉市豊浜町大字大浜字深田４８２－１		
自己評価作成日	平成23年11月4日	評価結果市町受理日	

※　事業所の基本情報は，介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先ＵＲＬ	http://www.hksjks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3473900599&SCD=320

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島市安佐北区口田南４－４６－９
訪問調査日	平成23年11月28日

【事業所が特に力を入れている点，アピールしたい点（事業所記入）】

日常生活の中で利用者の意思及び人格を尊重し、家庭の延長として、その人らしい安心した生活ができるよう支援している。
利用者の体調管理及び下肢筋力をつけるため、散歩、体操等を取り入れている。天候の良い時には１対１で散歩に出かけ、会話をするようにしている。
季節行事としてお正月や節分、桜の木の下でのお花見、夏祭り、そうめん流し、成寿園まつり、焼き芋大会、クルスマス、餅つき等をして利用者に喜んでいただけるように取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホーム大浜は、海と山に囲まれた自然豊かな環境のなか、笑顔と温もりを大切にその人らしさをいつまでも保てる安心と安らぎのある暮らしを目指しておられます。
まわりを果樹園に囲まれ、散歩で、馴染みの人と挨拶を交わすほどに　のどかな風景が、そこに有ります。併設した介護老人保健施設と行事を合同でする事もあり、成寿園まつり等も、屋台等が出て、大変盛り上がっていました。入居者と共にサツマイモの収穫をして、焼き芋大会も　模様され、一日一日、充実した日々を過ごせるよう皆で、工夫の毎日です。四季折々の行事を通して楽しみながら季節を感じることができ、島民の方々と久しくふれ合いのあるホームです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容	
Ⅰ　理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり，管理者と職員は，その理念を共有して実践につなげている。	理念は大きく書き出し、常に職員の目の届く位置に表示している。 朝礼時、職員全員で唱和している。	理念を掲げ質の高いサービスに努めると共に、地域に愛され喜ばれるホームづくりを目指している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう，事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の祭りに参加している。 当園に幼稚園の園児が定期的に訪問してもらっている。	夏祭り、成寿園秋祭り、幼稚園児の来訪等、積極的に地域参加の機会を設けている。	交流スペースにて、地域の方々と交流する事で、入居者の方が生きがいを持てるよう、支援を期待します。(例として、地域の方々をおもてなしする日を設定して、着物で、抹茶をふるまう)
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は，実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を，地域の人々に向けて活かしている。	常に開放し、自由に見学できるようにしている。 地元の診療所への受診により、支援への理解に繋がっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では，利用者やサービスの実際，評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い，そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2カ月に1回実施している。 地域から当園への要望等を伺い、それに添えるよう心がけている。	運営推進会議に自治会長、市福祉保険課、包括支援センター、民生委員、家族代表、管理者、職員が参加して、家族からの意見や要望を聞いたり、行事報告や事故報告等、現状報告をしながら、サービスの向上に取り組んでいる。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り，事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら，協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議に参加して頂き、相互に連絡し合っている。	やむをえず身体拘束をする時等（ベット柵）、市の担当者と相談しながら、話し合いを行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており，玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。但し、安全上必要な場合は家族の同意を得ている。	玄関は、開放されている。拘束については、細かい配慮をし、研修を重ね、拘束ゼロに向かって努力している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は，高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち，利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い，防止に努めている。	合同研修、事業所研修で学び、些細な言葉、声かけ態度に注意を払い虐待防止に努めている。		

グループホーム大浜

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は，日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち，個々の必要性を関係者と話し合い，それらを活用できるよう支援している。	事業所内の研修会で学習している。家族から相談があれば対応します。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結，解約又は改定等の際は，利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね，十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約前に当園を見学され理解して頂いている。また、ご家族に来園･面会時を利用して、苦情･疑問点がないかをお尋ねしている。		
10	6	○運営に関する利用者，家族等意見の反映 利用者や家族等が意見，要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け，それらを運営に反映させている。	日常生活の中で常に利用者の声に耳を傾け、カンファレンスや日々の申し送りで意見交換を行っている。	家族の面会時に意見や希望を聞き、それをホームの運営に活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は，運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け，反映させている。	日々の業務や申し送りの中で意見を述べる必要があれば申し出るようにしている。 職員用の意見箱を玄関に設置している。	日々の申し送りやミーティング等に職員の意見や提案を聞き、個々の思いの把握に努め働きやすい職場、環境づくりが、なされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は，管理者や職員個々の努力や実績，勤務状況を把握し，給与水準，労働時間，やりがいなど，各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	月に1度、理事長視察があり要望を聞いている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は，管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し，法人内外の研修を受ける機会の確保や，働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内の合同研修、個人研修と法人外の研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は，管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり，ネットワークづくりや勉強会，相互訪問等の活動を通じて，サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同一法人の事業所とは頻繁に交流しているが、他法人の事業所とは交流できていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価 実施状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容	
II　安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で，本人が困っていること，不安なこと，要望等に耳を傾けながら，本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	契約時に丁寧に説明を行い、入所当初は充分に声をかけ合い、少しでも早く慣れて頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で，家族等が困っていること，不安なこと，要望等に耳を傾けながら，関係づくりに努めている。	同　上		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で，本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め，他のサービス利用も含めた対応に努めている。	当グループホームのみならず特養･老健の入所も視野に入れて、本人に適したサービス、家族からの要望も取り入れるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は，本人を介護される一方の立場に置かず，暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	常に傾聴し、人生の先輩としてアドバイスを受け日常の生活の中で取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は，家族を支援される一方の立場に置かず，本人と家族の絆を大切にしながら，共に本人を支えていく関係を築いている。	家族の意見をよく伺ってそれに添って日常の声かけや生活を行うよう心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう，支援に努めている。	島内の方は受診時に馴染みの方との言葉かけをするようにしている。島外のかたは面会時、家族と一緒にドライブを兼ねての外出やお墓参り、近くの散歩をお勧めしている。	日々の散歩時に挨拶や話掛けをしたり、行きつけの美容院に行かれる等、馴染みの人との関係の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し，一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い，支え合えるような支援に努めている。	共同生活の中で本人の意見を尊重しながら、他者との交流を図っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても，これまでの関係性を大切にしながら，必要に応じて本人・家族の経過をフォローし，相談や支援に努めている。	連絡があれば相談に応じている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望，意向の把握に努めている。困難な場合は，本人本位に検討している。	プラン立案時、必ず本人の意見を聞き、プランに反映している。	入居者の希望を聞き、畑作りや墓参り等、一人ひとりの思いを感じ取り、意向に添えるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方，生活環境，これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントに力を入れ、本人の生活を把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方，心身状態，有する力等の現状の把握に努めている。	日々発する言葉、行動、身体状況等を記入し、職員間で情報の共有を図っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について，本人，家族，必要な関係者と話し合い，それぞれの意見やアイデアを反映し，現状に即した介護計画を作成している。	申し送りやケアカンファレンスで意見を求め、現状に即したプランを作成している。	モニタリングで問題点を出し合い、変化が見られたり、ずれが認められた場合には早急に見直しが、行われている。、	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果，気づきや工夫を個別記録に記入し，職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケース日誌に毎日記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況，その時々に生まれるニーズに対応して，既存のサービスに捉われない，柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	グループホーム、特養、老健、ショートステイ等、かぞくと本人の希望に添った支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し，本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	民生委員の方から情報を頂いたり、ボランティアの訪問を受けている。火災訓練には消防署に参加、指導を頂いている。 中学生の体験学習を受け入れ、利用者と触れ合っていただいた。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は，本人及び家族等の希望を大切にし，納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら，適切な医療を受けられるように支援している。	家族と本人に相談してかかりつけ医や専門医を設定している。	月2回、往診があり又必要な方には、通院介助も行っている。健康面における相談や受診等を行い適切な医療支援、健康管理が行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は，日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを，職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し，個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	隣接している老健の看護師に時々アドバイス受けたり、特変時には相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際，安心して治療できるように，また，できるだけ早期に退院できるように，病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は，そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について，早い段階から本人・家族等と話し合いを行い，事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し，地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所時、ターミナルケアを行わないことと重篤化した時の支援について説明している。	入所時、重度化した場合の事は説明しており、ぎりぎりまで本人や家族の意向に沿い対応できなくなれば、入院、入所を勧めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて，全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い，実践力を身に付けている。	機会教育を実施しているが、定期的には行っていない。ＡＥＤ講習は全員受講している。		
35	13	○災害対策 火災や地震，水害等の災害時に，昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに，地域との協力体制を築いている。	避難訓練をしている。朝礼時に火災発報時の対処要領を唱和している。	年２回、隣接の老健と合同で避難訓練を行なっている。（夜を想定しての対応も行っている。）	
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し，誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	声かけ･対応に不適切なことがあれば、その場で注意している。記録は関係者以外には公表していない。	プライバシーには常に配慮し、個人の尊厳を大切にしながら、一人ひとりに合った対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり，自己決定できるように働きかけている。	日常の会話の中から思いや希望を聞き出している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく，一人ひとりのペースを大切にし，その日をどのように過ごしたいか，希望にそって支援している。	その人のペースも程度次第で、リズム正しい生活ができるように、または、取り戻せるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	衣服の選択も本人の希望を聞いて着用して貰っている。本人の希望があれば美容院を利用している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう，一人ひとりの好みや力を活かしながら，利用者と職員が一緒に準備や食事，片付けをしている。	食事の準備、後片付け等一緒に行っている。	隣接の老健の栄養士が作る献立表によって栄養バランスの取れた食事を提供している。時折、変更してホーム内で、皆で楽しみながら手作りされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	食事量のチェックで食欲を測り、低下のかたには栄養補助を検討、嚥下困難な方にはトロメリン対応、ミキサー食、ゼリー、粥で対応、水分補給には充分気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	出来る方は自分で義歯を外して洗って頂き、出来ない方は職員が介助する。夜間のみ義歯を預かり洗浄剤につける。 自歯の方で受診が困難な方は月に一度の口腔ケアの往診を受ける。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	できるだけ快適に過ごしていただけるよう、布パンツに切り替えができる方はしている。	排泄のパターンを把握して、トイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日排便状況を確認し、水分補給と散歩、運動等に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴表で曜日や時間帯の変更はできるが、職員体制上、夜間は難しい。	脱衣場に暖房が入るようになり、ゆっくり入浴を楽しんでいる。原則週3回、午後入浴だが、希望があれば毎日でも可能。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて，休息したり，安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	テレビを観たり、ソファーでくつろいで頂いている。また、エアコンや寝衣の調整で安眠しやすい環境づくりに心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用，用法や用量について理解しており，服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	受診記録や申し送りにより職員に周知している。不明の場合は薬処方せんで確認する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割，楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように，一人ひとりの生活歴や力を活かした役割，嗜好品，楽しみごと，気分転換等の支援をしている。	毎月、季節行事を取り入れたり、利用者個々の能力を生かして手伝いをしていただく。(調理、洗い物、テーブル拭き、食器拭き等)		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって，戸外に出かけられるよう支援に努めている。また，普段は行けないような場所でも，本人の希望を把握し，家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	体調と天候の許す限り、散歩は日課としている。 希望があれば近くのＪＡ買い物に出かけている。	近隣への散歩が、日課になっており、マンツーマンか二人ずつの支援を行っている。又、食事ツアーに出掛ける事もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は，本人がお金を持つことの大切さを理解しており，一人ひとりの希望や力に応じて，お金を所持したり使えるように支援している。	管理は職員がしているが、買い物ツアーで買い物をする機会を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり，手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人自ら手紙を書かれる方は限られているが、その方と一緒に郵便局へ同行している。 電話の希望があれば家族に相談してかける。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等）が，利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音，光，色，広さ，温度など）がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室に障子を貼り、柔らかな光で入居者を和ませている。また入居者により草花を生けて季節感を感じることができる。	ゆったりとしたリビング、食堂があり、談話スペースもある。随所に花が飾られ、思い思いにくつろげるよう、配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で，独りになれたり，気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアーや食堂にソファアーを置き、各自でくつろいで頂ける空間を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は，本人や家族と相談しながら，使い慣れたものや好みのものを活かして，本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	希望の方には馴染みの家具を搬入して利用して頂いている。思いでの写真や自分で作った陶芸作品を飾っている。	家族が、面会に来ても居室は広く、障子のある空間は、おちつける。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして，安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物はバリアフリーとし、廊下、トイレ、浴室等は手すりをつけている。トイレは大きく表示し、居室には大きな名札と顔写真を表示している。 自室への誘導を示す矢印を表示している		

V　アウトカム項目			
56	職員は，利用者の思いや願い，暮らし方の意向を掴んでいる。		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の3分の2くらいの
		○	③利用者の3分の1くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が，一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
			②数日に1回程度ある
		○	③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は，一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は，職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は，戸外への行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
		○	③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
61	利用者は，健康管理や医療面，安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
62	利用者は，その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により，安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
63	職員は，家族が困っていること，不安なこと，求めていることをよく聴いており，信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の3分の2くらいと
			③家族の3分の1くらいと
			④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
65	運営推進会議を通して，地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり，事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
66	職員は，活き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の3分の2くらいが
			③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の3分の2くらいが
			③家族等の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない

（様式２）

２　目標達成計画

事業所名　　グループホーム大浜

作成日　　平成23年11月4日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点，課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	利用者への声かけや家族の対応等に職員により差がある。	人材育成に努め、職員の資質向上を図る。 より一層家庭的な温かい支援をする。	基礎知識を得る機会教育を多く取り入れ、内外の研修に参加する。	１年
2	2	地域密着型の事業所として地域との交流が少ない。	活用できる地域資源を探す。	グループホーム内で好評となっているおふくろ喫茶を開催し、地域住民を招待する。	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注１）項目番号欄には，自己評価項目の番号を記入すること。
注２）項目数が足りない場合は，行を追加すること。